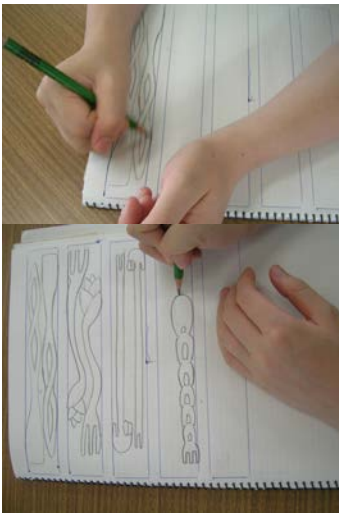


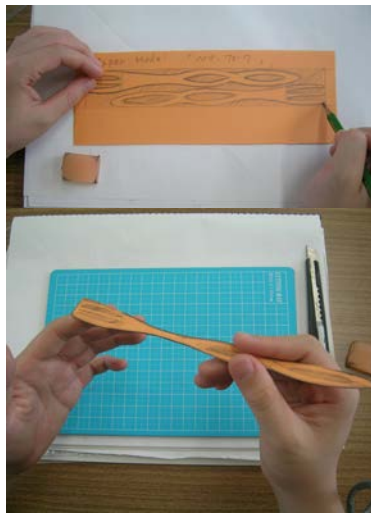
千葉県立木更津東高校 平野智子

☆ 見る力、考える力、表現する力、鑑賞する力を高める。



(ペア・フォークの図案) 1枚の真鍮板から2本の作品が作れるようなアイデアを練ります。完成したフォークを手にとったとき(完成後、使用したとき)に皮膚に引っかかる形にならぬようにデザインの段階で気を配ります。

例) 丸みのある滑らかな形、自然界のイメージから、植物の成長や蕾が咲く様子、或いは空気が振動する風のイメージをデザインしてみます。いわゆる四大元素「火・風・水・土」



(厚紙による試作・実物大型紙) 何種類かのデザイン画から使いやすい形を選びます。真鍮の幅板に合わせた図案を完成と同じ大きさに描きます。

切り落とす部分には斜線を描くことで形が分かりやすくなります。

フォークの形に切り抜いた厚紙を手に取り、使い心地をイメージします。この段階でデザインの変更・修正を行います。

これを真鍮板に載せて型紙に使用します。



マジックインクが消える程度に加熱します。(金属結晶がそれぞれ互いに滑りやすくなります。ある程度の熱加工により可塑性が増すこととなります。) ※真鍮の幅板は、ほとんどの場合、出荷時に加工硬化しています。



糸鋸刃をフレームに取り付け、爪で弦(糸鋸刃)を弾き音(高音程)を確認し、蠟を塗ります。・フレーム全体の重さを垂直に落とすような感じで鋸刃山の全体を当てるように引きまします。・方向転換の難しい部分は錐穴で、廻し引き作業を簡便にします。



(フォーク先端加工)

・錐穴の周囲が加工硬化しているので、切削作業の前に熱処理します。・やっごと等で掴み、冷却します。・けがき針の代わりに、マジックペンで切断線を書き直します。



・スリ板のV谷際に鋸刃を合わせて、棒鱧による修正を可能な限り減らせるように、力を入れず下ろします。・12本組目鱧で断面を修正します。・先端をやや薄くなるように加工します。その他の面も鱧仕上げします。



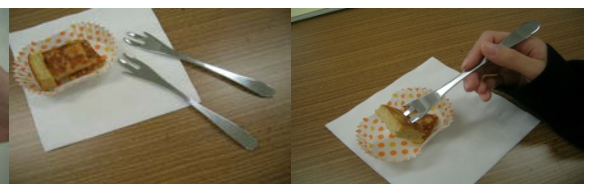
・木台と芋鱧で手に沿うような使いやすい形に修正します。・表面修正は耐水紙鱧の360番から粗目研ぎで削り落とします。800番までを使い、最後は鍍金工場にてパフ掛けしてもらいます。



工場に出荷する前の作品 細かい削が目立ちます。



完成、ペア・フォーク



評価/・デザインを考えるプロセスにおいて美術デザインへの関心が高まったか/・自然界の形を観察しデザインに生かすことで考える力が高まったか/・金工用具・材料の特徴を生かし段階毎に効率的に制作することができたか。/・級友の完成作品の良いところを感じ取ることができたか。

ペア・フォークの物語 「学期の最終日、鍍金工場から帰ってきた私のフォークと再会した。友人と小さなケーキを焼いて試食した。今までに無い特別な時間だった。ごちそうさまでした。」